



㊦ここにあいさつする子 ㊧しっかり勉強する子 ㊨ろこんで働く子 ㊩からだをきたえる子 ㊪ながり学び合う子 ㊫ころをみがく子

■ 食欲の秋 ～噛めば噛むほど頭がよくなる～

朝夕の風が心地よくなり、実りの秋を迎えました。秋は、さつまいもや栗、新米など、おいしい食べ物が豊富な季節です。子供たちにとっても、食べることの楽しさや旬の味覚を知るよい機会となります。しかし、近年は食生活の変化により、柔らかい食べ物を口にする機会が増え、「よく噛まないで食べる子ども」が多くなっていると言われています。また、忙しい毎日の中で、食事を短時間で済ませたり、テレビやスマートフォンを見ながら食べたりすることで、噛む回数が少なくなっていることも心配されています。

「噛む」という何気ない動作には、子供の成長を支える大切な役割があります。よく噛むことで食べ物が細くなり、消化・吸収がよくなるだけでなく、唾液がたくさん分泌され、虫歯や口の中の健康を守る働きがあります。また、あごの発達を促し、丈夫な歯並びや正しいかみ合わせにもつながります。

さらに、噛む刺激は脳へ伝わり、脳の働きを活発にすることも分かっています。集中力や記憶力が高まり、学習への意欲や活動にもよい影響を与えることから、「噛めば噛むほど頭がよくなる」と言われています。毎日の食事は、体をつくるだけでなく、学ぶ力を育てる大切な時間でもあるのです。学校では、給食の時間を通して「よく噛んで食べること」の大切さを伝えています。しかし、この習慣は学校だけで身に付くものではありません。ご家庭で「今日はどんな味がするかな」「よく噛むと甘くなるね」などと声をかけていただいたり、家族で食卓を囲み、ゆっくり会話を楽しみながら食事をしたりすることが、子供たちの健やかな食習慣につながります。

食べることは、生きること。「よく噛むこと」は、生涯にわたる健康の土台となる大切な習慣です。実り豊かなこの季節、ご家庭でも「よく噛んで味わう食事」を意識していただき、お子様の心と体、そして未来を育む時間としていただければ幸いです。学校でも、ご家庭と手を携えながら、子供たちの健やかな成長を支えてまいります。

■ 第2回資源物（アルミ缶）回収

今年度2回目となるPTA アルミ缶回収を9月2日（水）から9月4日（金）までの3日間実施いたしました。早朝にもかかわらず、PTA 役員の皆様には回収作業にご協力いただき、心より感謝申し上げます。また、多くのご家庭にもアルミ缶回収へのご理解とご協力をいただき、子供たちは登校時にアルミ缶を持参し、今回もたくさんの資源が学校に集まりました。



フレコンバックへ投入

回収場所では、環境委員会の子供たちが主体的に活動する姿が大変印象的でした。「ありがとうございます。」と気持ちのよいあいさつを交わしながらアルミ缶を受け取り、袋がいっぱいになると友達と声を掛け合って運ぶなど、それぞれが自分の役割を責任をもって果たしていました。誰かに指示されたからではなく、自ら周囲に目を向け、主体的に動く姿に、確かな成長を感じました。

さらに、「家族みんなで集めたよ。」とうれしそうに話してくれる子供たちもあり、この取組が学校だけでなく、家庭とのつながりの中で支えられていることを改めて実感いたしました。また、地域の皆様からもアルミ缶を届けてもらっています。アルミ缶回収は、資源を有効に活用する環境教育の実践であるとともに、人と人との支え合いや奉仕の心を育む貴重な教育活動でもあります。一つ一つのアルミ缶には、ご家庭や地域の皆様の温かいご協力と、子供たちの「学校のために役立ちたい」という思いが込められています。これからも、このような活動を大切に積み重ねながら、思いやりと実践力を備えた子供たちの育成に努めたいと思います。

■ 人とつながる力を育む SST

本校では今年度から、全校で毎月1回、SST(ソーシャルスキルトレーニング)に取り組んでいます。SSTとは、友達との関わり方や、自分の気持ちの伝え方、相手を思いやる行動など、学校生活をより豊かに送るための「人と関わる力」を育てる学習です。子供たちが安心して過ごせる学級づくりには、学力だけでなく、互いを認め合い、気持ちよく関わる力を育てることが大切だと考えて、今年度から取り組んでいます。

9月3日(木)に取り組んだテーマは、「気持ちの良いあいさつと返事をしよう」です。子供たちは、「あいさつ名人」のポイントとして、「相手の目を見て」「相手に聞こえる声で」「笑顔で自分から」の三つを意識しながら活動しました。友達同士で実際にあいさつを交わし、「目を見てもらえるとうれしいね」「笑顔だと話しかけやすいね」など、感じたことを伝え合う姿も見られました。

翌朝から各教室では、これまで以上に「おはようございます。」という元気な声が響くようになりました。1学期はあいさつを自分からしていなかったある子供は、少し照れながらも自分から先生や友達に笑顔であいさつをし、あいさつを返されたときには、とてもうれしそうな表情を見せていました。また、多くの学級で授業中の返事も、相手を見てはしっかりと返す姿が増え、教室全体が明るく、温かな雰囲気になってきています。私が教室に入っていくと「こんにちは。」と笑顔で迎えてくれる学級も増えました。10月のSSTの取り組みが楽しみです。

■ 遊具が地域の温かいご支援に感謝

このたび、外壁塗装・雨漏り修理専門店「ぬるばい」さんのご厚意により、本校の遊具をきれいに塗装していただきました。今回の塗装は、「地域のために何か貢献したい」という「ぬるばい」さんからの申し出がきっかけとなったものです。すべり台付き遊具やブランコ、吊り輪など、子供たちが日頃から親しんでいる遊具を、専門的な技術で丁寧に塗り直していただきました。しかも、今回の作業はすべて無償で行っていただきました。子供たちのために、このような温かいお力添えをいただきましたことに、心より感謝申し上げます。特に、すべり台付き遊具については、塗装する前に4年生の子供たちに「どんな色にしたいか」というアイデアを聞いてくださり、そのアイデアを生かして塗装してくださいました。子供の思いが形となり、これまで以上にカラフルで親しみのある遊具に生まれ変わりました。

2学期が始まると、早速たくさんの子供たちが遊具のもとへ駆け寄り、すべり台を滑ったり、ブランコを楽しんだり、吊り輪に挑戦したりする姿が見られました。新しくきれいになった遊具とともに、子供たちの明るい笑顔や楽しそうな声が校庭いっぱいに広がっています。

学校は、地域の皆様の温かい支えによって成り立っています。今回のご支援を通して、地域の方々の子供たちへの思いを改めて感じる事ができました。「ぬるばい」の皆様、本当にありがとうございました。これからも大切にに使わせていただきます。



きれいになった遊具

■ 併免実習終了

2週間の「併免実習」が終了しました。今回の実習は、大学4年生が小学校の教員免許取得を目指して取り組むものです。実習生8名は、主たる免許が中学校・高等学校の教員免許で、3年生のときには、それぞれ中学校や高等学校で教育実習を経験しています。中学校や高等学校と小学校では、子供の発達段階が大きく異なります。また、小学校では基本的に一人の担任が国語、算数、理科、社会など、さまざまな教科を指導します。そうした違いに戸惑うこともあったのではないかと思います。しかし、8名の実習生は、子供たち一人一人と積極的に関わり、子供の目線に立ちながら、授業や学級づくりに一生懸命取り組んでいました。さらに3年生時に行った中学校・高等学校での教育実習を振り返り、そのときの反省や学びを今回の実習に生かそうとする姿も見られました。前回の経験を次の学びにつなげようとする姿勢は、教師を目指す上で大切なことだと思います。

8名の実習生の皆さんが、今回の経験をこれからの学びや将来の教師としての実践に生かしてくれることを願っています。